

イネ種子の保存 イネの推定寿命 (発芽率90%)		
貯蔵温度 (℃)	種子水分 (%)	推定寿命
10	20	335日
10	10	36年
0	20	4年
0	10	175年
-10	20	22年
-10	10	356年



絶滅危惧種 タネで守れ

絶滅の恐れのある植物を将来にわたって守るため、種子を長く保存していく活動が国内でも始まった。環境省は10月、新宿御苑(東京都新宿区)で種子保存モデル事業をスタートさせた。日本植物園協会も、こうした動きと連携して保存を進めていく方針だ。

(米山正寛)

国、都内に冷凍庫整備

環境省のレッドリストは、国内に約7千種ある種子植物・シダ植物のうち約4分の1にあたる1690種を絶滅危惧種としている。02年の生物多様性条約締約国会議で採択された世界植

物保全戦略では、植物の多様性を守るため、10年に各国の絶滅危惧種の60%を生息地外で保全することを求めている。日本植物園協会の最新の調査で、国内の植物園に50%を越す

マイナス20度 数十年間維持

849種があることが確認された。とはいえ、栽培している植物は、いつ枯れてしまいかかわらない。



都町田市の小山内裏公園

採取時の情報 記録して残す 種子は各園で栽培される絶滅危惧種からのほか、野生の植物からも集められる。倉庫重二・新潟県立植物園園長は「産地の明確な種子を集めることが重

要。いつ、どこで、どんな状態の植物から採取したかといった情報を記録するとともに、証拠となる押し葉標本やDNAサンプルも残していくべきだとされている」と話す。こうした取り組みは、すでに英国や中国などで進んでいる。海外の植物園に詳しい園芸家の月江成人さんは「現場での作業量が多いため最低でも3人のチームで動く。集めた種子に関する科学的に価値のあるものとみなされない」と説明する。環境省が今年整備したマニユアルは、この流れに沿って種子の採集や保存の方法、許認可手続きが必要な場合の進め方などを解説しており、全国の拠点園を中心に配布された。富山県中央植物園などは、種子採集に協力してもらう市民対象の講習会を開き始めた。

環境 エコロジー

農作物・樹木は先行

農作物や樹木の種子は、農業の遺伝資源として以前から保存されてきた。農作物として利用する以上、保存種子は生きていないと困る。このため、ほぼ5年ごとに発芽調査をする。発芽率が悪くなったたり、種子の数が減ったりした場合は、そのつと育てて種子を増やす仕組みだ。西川智太

郎・主任研究員は「このバンクでしか保存されておらず、一度失われると取り返しのつかない種子もある」と話す。樹木は森林総合研究所林木育種センター(茨城県日立市)が担当する。スギ、ヒノキなどの有用樹種を中心に約5千点の種子を保存している。



種子を詰めたペットボトルが奥の種子庫につくば市の農業生物資源研究所

